

「表彰制度」と「見える化」で無事故風土醸成 中田商事

中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）では、従業員の休憩ルームで情報の「見える化」を進めている。壁に貼られたボードには例えば「組織・会議体系」というタイトルで提案・決定連絡・報告といった組織の意思決定の流れが分かりやすく図解されている。ボードは交通事故防止に関する情報が多く、ヒヤリハットの集計表や運輸安全マネジメントの取り組み状況なども掲示されている。中でもひととき目を引くのが、「安全運転者番付」だ。これはことし4月に新しい社内表彰制度をスタートさせたことに合わせて設置した。表彰制度は無事故・無違反・



見える化を進める



新たに設置した安全運転者番付

ノークレームの継続年数によって表彰と報奨金を授与することで社員のモチベーションアップにつなげる。出費となるが事故による保険料アップを勘案すれば採算が取れると判断した。そして番付はその制度を見える化したもので、無事故年数に応じて横綱（10年以上）から前頭（半年以上）まで用意されている。中田社長は「表彰制度と“見える化”によって無事故が当たり前という風土を醸成したい」と話す。